

宇宙は今 時語るに 及ばず

作・演出 山科晃一

「芝居」は、役者の身体の振舞や発声によって、ナラティブなフィクションを想起させる行為ですが、人間の小宇宙性そのものを現前化させる画期的な営みでもあります。宇宙はあらゆる角度から天文学的に、生物学的に、科学的に言及され、可視化されていますが、役者の身体によってのみ映し出される無限で夢幻の宇宙がホワイトキューブという現実空間にフィクションを介在させたとき、あらゆる方程式が解体されていくブラックホールの如し空洞が表出します。

名古屋市文化基金事業 ファン・デ・ナゴヤ美術展2022「宇宙は今時語るに及ばず」

2022年1月7日(金)～16日(日)

10:00～19:00(10日(月・祝)、16日(日)は17:00まで)

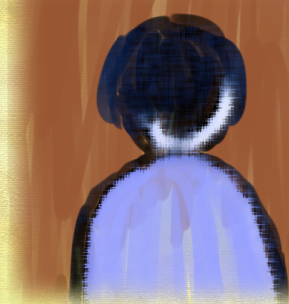
※休館日:11日(火)

名古屋市民ギャラリー矢田 第2～4展示室

入場無料

約50億年後、恒星である太陽の寿命が尽きる頃、太陽系では次なる恒星を探すべく×××達による首脳会議が行われていた。探査途中、ある星の引力によって時空間ごと墜落し、それぞれの生命体は肉体を持たされ、人間らしい振舞いを求められ、また成そうとすることも小さな物語へと置き換わってしまった。それは「一つの核家族が失踪したトオルを探す」という物語だった。×××は物語完成のため、懸命に役柄に取り組む。だが、×××にとって主人公を見つける事が至上命題として置き換わり、恒星を見つけるという現実の物語は空を切り続ける。それはまるで、地球外生命体の地縛霊のように、この空間を人間として「呼吸」している。

『AREA2 内省 / Introspection』(第2展示室)



第一幕 (10分)
回想譚

第二幕 (10分)
捻じれ譚

第三幕 (10分)
反芻譚

朝、目が醒めたら天井に小さな蜘蛛が歩いてたんです。蜘蛛ってほら、糸を垂らすじゃないですか。だから、私、待ってたんです。仰向けのままですね。でも一向に降りてこないんです。だから待ってたんです。降りてくる気がして。も降りてこない。待ってるうちに、あ、朝ごはん作らなきゃなって他の事考えてました。それで起き上がったんです。そしたら、蜘蛛が近くになって、当たり前ですよね。私が立ち上がったんですから。

「クーリシエ、クリシエ、クリシエ、高収入〜♪」
「……何、あれ」
「あれは、役に魂を奪われた亡霊たちの護送車だよ」



『AREA3 噂 / Gossip』(第3展示室)

第一幕 (10分)
伝聞譚

第二幕 (10分)
思想譚

第三幕 (10分)
忘却譚



『AREA4 幽かな吐息 / Slight sigh』(第4展示室)

ステーション

私たちはどこの誰だか知らないあなたを探している
狼たちが水を飲む場所に、一滴、また一滴と、世界の続きを足していく薄っぺらい片腕とともに

※ 芝居は不定期で行われます。

出展作家 山科晃一

1991年兵庫県神戸市生まれ。テレビ局勤務後、2019年東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻修了。

映像制作会社、広告制作会社を経て現在フリーランスとして映像／広告のディレクション及びシナリオを担当。ナラティブを通して役そのものと対峙し、資本と身体の関係性や、役の実存性、「幽玄なるもの」について追究。

同時開催の 展覧会情報

- 第1展示室「巻藁船」
企画：中村綾花 出品作家：杉原信幸、中村綾花
- 第5～7展示室「密室、風通しの良い窓、ごちないモンタージュ」
企画：宮崎竜成 出品作家：うえだあやみ、定村瑠子、宮崎竜成

会場

名古屋市民ギャラリー矢田
名古屋市中区大幸南一丁目1番10号 カルポート東 3F/4F
TEL:052-719-0430

【交通アクセス】

- 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」下車1番出口南へ徒歩5分
- ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」下車 南へ徒歩3分
- 市バス「大幸」下車 徒歩5分(名駅15号系統、東巡回系統)



感染症対策

- ・マスク着用、手洗い、手指の消毒にご協力ください。
- ・発熱の症状がある場合や体調がすぐれない方はご来場をお控えください。
- ・感染が発生した場合に速やかにご連絡を差し上げるため、ご入場の際に受付にてお名前・お電話番号をご記入いただきます。

お問合せ 公益財団法人名古屋市民文化振興事業団 TEL 052-249-9385 (平日 9:00-17:00)